

## こころの救急箱 通信 第11号

発行：特定非営利活動法人 こころの救急箱 2016年9月

事務局：電話・FAX：06-6942-9092

eメール cocorono9090baco@kpa.biglobe.ne.jp

URL <http://www1a.biglobe.ne.jp/cocorono9090baco>

相談電話：06-6942-9090（月曜日夜8時～火曜日朝3時）



### 『自殺対策と傾聴する力』

秋田自殺対策センター

NPO法人 蜘蛛の糸 佐藤久男

自殺対策とは何か。そして「傾聴」によって防げる自殺はどの位あるのでしょうか。この二つの課題の相関は私が長い間追い求めているテーマです。活動の初期は、自殺対策は「地域を元気にするための活動である」と定義していました。相談体験が積み重なるにつれて「平凡な人間による、平凡に生きる人のための、平凡な活動である」と考えるようになりました。自殺に追い込まれる人は、精神疾患や多重債務者、職場のパワハラ、ひきこもり等、身近にいる人達です。自殺は誰にとっても起こりうる隣接領域にあるのです。そのために、相談員は視線を下げて悩める人の側にどんどん近づいていかなければなりません。相談員は必要なスキルを備えた平凡人であるべきだと思っています。思考の変遷を経て、今は、自殺対策は「人間総合対策である」、そして「地域住民のいのちを守る」活動であると定義しています。NPO 法人蜘蛛の糸を設立してから15年。ひたすら自殺を考える人の悩みを傾聴してきました。「面談」による相談件数は、延べ4000回は超えたでしょう。ひとりとして同じ悩みの相談者はいませんでした。

数年前の夏の朝のこと。自宅に一本の電話がありました。以前に相談を受けた化粧品店の女性経営者でした。長い間、小さな町の商店街で化粧品店経営していました。順調な経営でしたが、ある時に隣町に大型ドラッグストアが進出してきました。開店の月にいきなり売上が30%も落ち、そのまま売上は回復しません。運転資金や住宅ローンの返済にいきづまってサラ金に追われていたのです。うつ病と体調不良で自殺を考えています。相談のキーマンをご主人に変えて家族ぐるみの支援を3年位続けました。自己破産の免責が終わり、娘夫婦が自宅を買い戻してくれたとの報告でした。会話の後に「佐藤さんのおかげで命びろいをしました。あの時に相談していなければ今頃は死んでいました。」と涙を流されました。私も思わず感情移入の涙を流しました。傾聴によって自殺は防げることを実感させられた朝の電話でした。